

歌詞

「BUSON '96」

YO・YO・YO・YO・YO・YO・SA・BU・SO・N

菜の花や（菜の花や） 月は東に 日は西に 日は西に  
春の海（春の海） ひねもすのたり のたりかな のたりかな  
やぶ入りや（やぶ入りや） 浪花を出て 長柄川 長柄川  
源八を（源八を） 渡りて梅の あるじかな あるじかな

BUSON BUSON YOSABUSON BUSON BUSON YOSABUSON ハイーッ  
BUSON BUSON YOSABUSON BUSON BUSON YOSABUSON

ハッ！春風馬堤曲 澱河歌 老鶯児 歳旦帖  
（シュンプウバテイキョク デンガカ ロウオウジ サイタンチョウ）

花いばら（花いばら） 故郷の路に 似たるかな 似たるかな  
菜の花や（菜の花や） 和泉河内の 小商い 小商い  
春風や（春風や） 堤長うして 家遠し 家遠し  
愁ひつつ（愁ひつつ） 岡にのぼれば 花いばら 花いばら

享保元年摂津の国は毛馬村 今の都島区毛馬町に生まれ 世は谷口のちに与謝と改めたと  
さ

若い頃に江戸に出て俳諧を学び芭蕉の足跡をたどって 東国にへ放浪の 旅をした  
画家としてもたいそな人でそののち京都に住みついて 文人画を大成したそうな  
ごっつい屏風や襖絵もいっぱい残したが  
六十歳で世をさって京都金福寺芭蕉庵のほとりに眠ってる。

五月雨や（五月雨や） 大河を前に家二軒 家二軒  
ふるさとに（ふるさとに） ひと夜は更ける ふとんかな ふとんかな  
春の水（春の水） 山泣き国を流れけり 流れけり  
渡し呼（渡し呼） 草のあなたの扇かな 扇かな  
新毛馬の 水門閘門から淀川堤を下っていけば そこは蕪村のふるさと ふるさと

BUSON BUSON YOSABUSON BUSON BUSON YOSABUSON ハイーッ  
BUSON BUSON YOSABUSON BUSON BUSON YOSABUSON

ハッ！毛馬橋 春風橋 飛翔橋 都島橋 源八橋 銀橋 川崎橋

(けまばし はるかぜばし ひしょうばし みやこじまばし げんぱちばし ぎんばし  
かわさきばし)

夏河を(夏河を) 越すうれしさよ 手に草履 手に草履

一軒の(一軒の) 茶見世の柳 老いにけり 老いにけり

藪入りの(藪入りの) 寝るやひとりの 親の側 親の側

春もやや(春もやや) あなうぐひすよ むかし声 むかし声